



Title	これからの地域DOTSスタイルの構築：新たな結核対策の時代に向けて
Author(s)	有馬, 和代
Citation	2025年度ストップ結核パートナーシップ関西 第13回ワークショップ「これからの結核対策を考える：新しい退院基準にどう備えるか」. 2026, p. 47-56
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104111
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

これからの 地域DOTSスタイル の構築

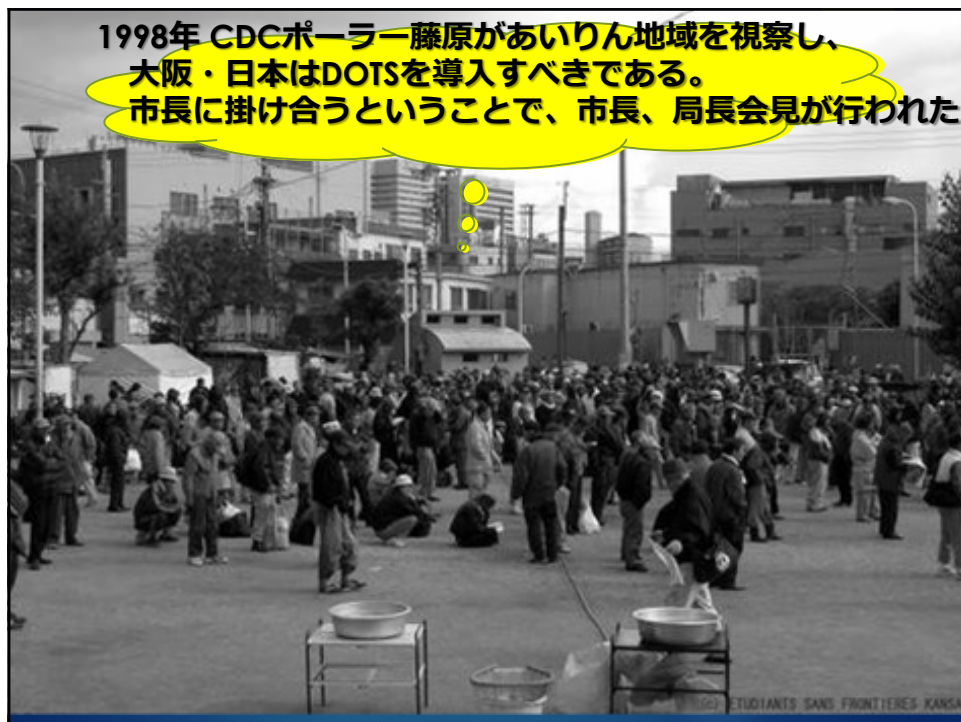
新たな結核対策の時代に向けて

太成学院大学 看護学部
有馬 和代

1

DOTS事業の本質に
立ち換えてみよう！

2



3

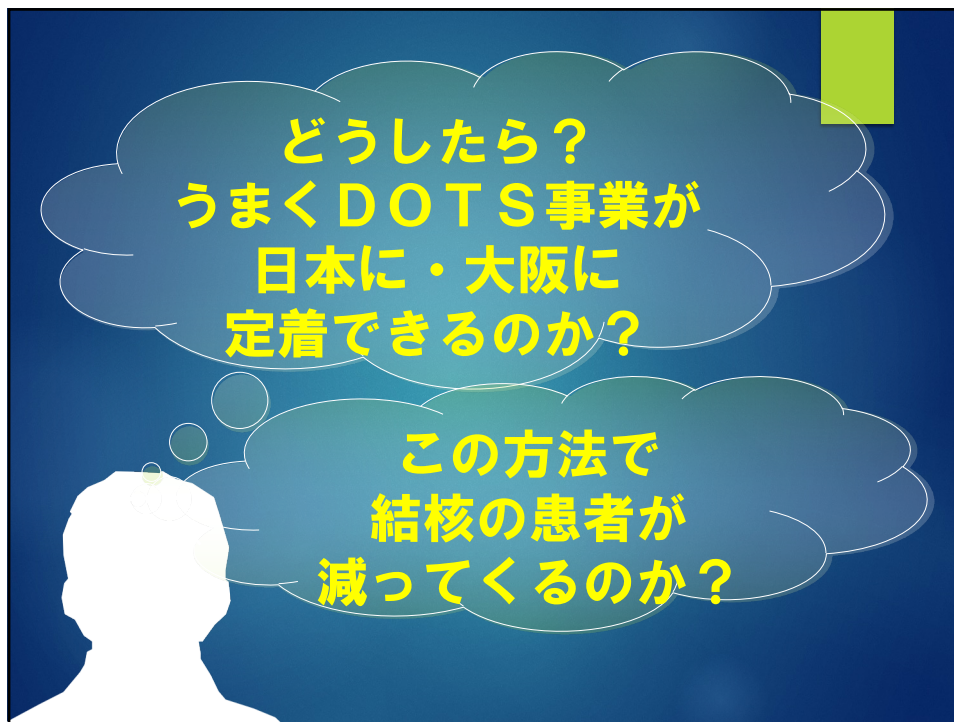
薬の管理は自分で行い、
日本では みんな薬を飲めている

慣習を
ぶち破る

今回の事業

「薬を飲んだ」
という確認を行うDOT

4



5

DOTSとは

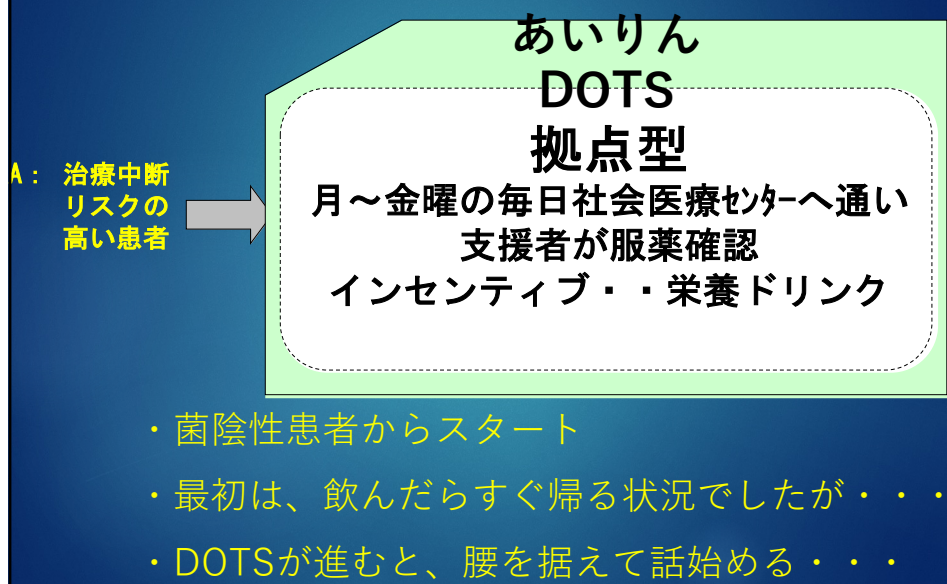
(直接監視下服薬確認)

Directly Observed Treatment Short-course

結核患者の治療完了をめざし、多剤耐性患者をつくらないようにするため、患者の目の前で確実に抗結核薬の服薬 (DOT) を行い、患者の治療成績を報告し、その評価を行う戦略のこと

6

日本版DOTSのはじまり



7

わしらは、いつも人から足蹴にされ、
ほっとかれてきた人間や！でも看
護師さんは、わしらの結核を治すこ
とに親身になってくれ、
こうして待っていてくれる

あいりんDOTSの風景

8

DOTSは“服薬管理”
というのではなく

寄り添う

DOTSは、
患者と向き合い
患者の声に耳を傾け
患者に寄り添うことで
患者とのより良い関係づくりができる
その人全体を支える

9

ここで、
再度おさえておきたい事は、

10

当時の羽曳野病院で
試行的に実施した院内
DOTSの様子

①飲めていな
い人がある

高齢者の患者さんの中で、シーツの上に
白い薬が落ちたことに気づいていなかった。

11

②人は

長期間の内服において
飲み忘れることがある

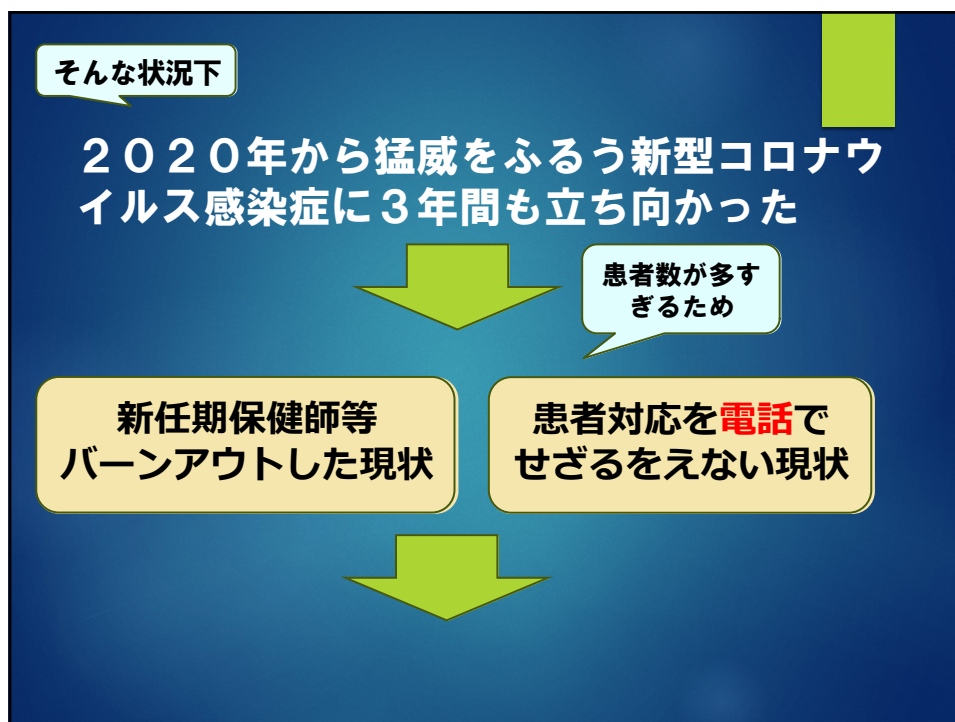
③誰もが

症状が無い中での
継続内服は困難

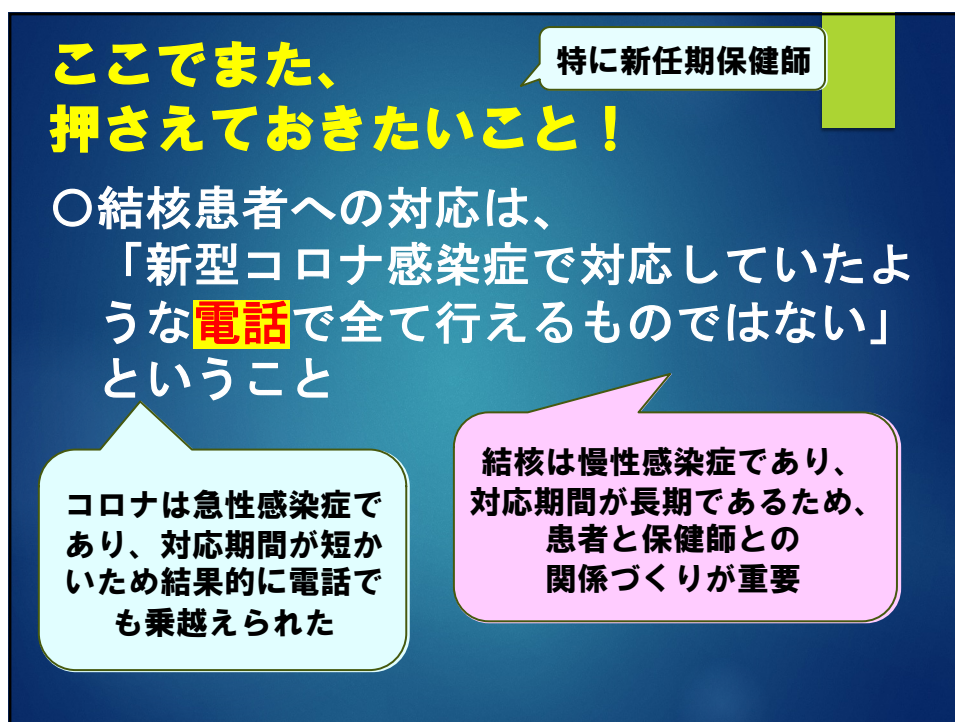


服薬支援が必要と理解され
DOTSが進められてきた

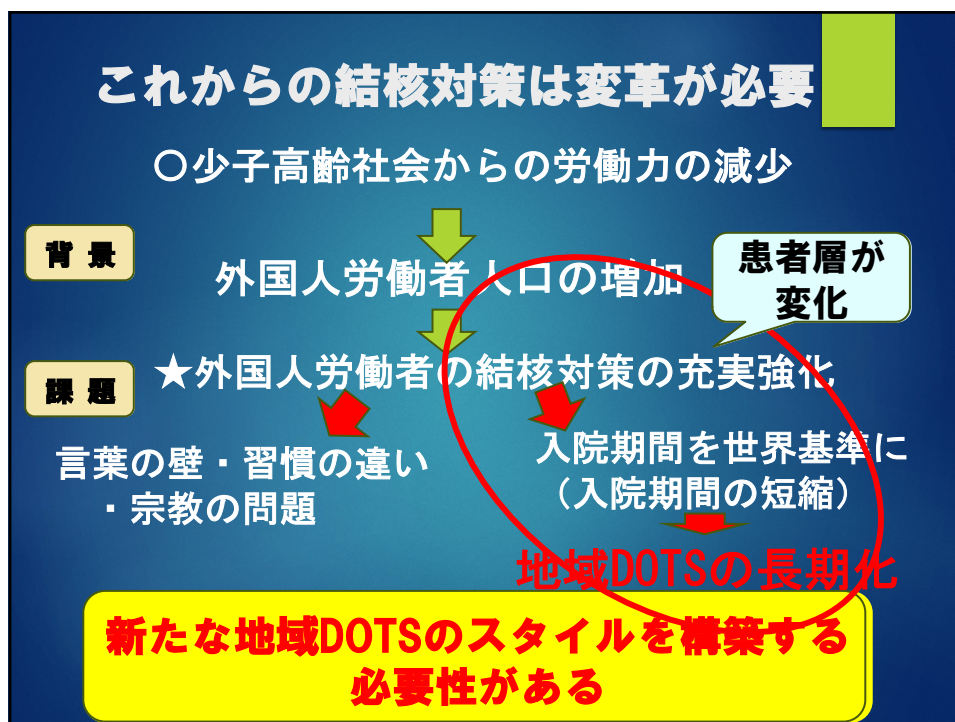
12



13



14



15

クラウドによる“飲みきるミカタ”システム



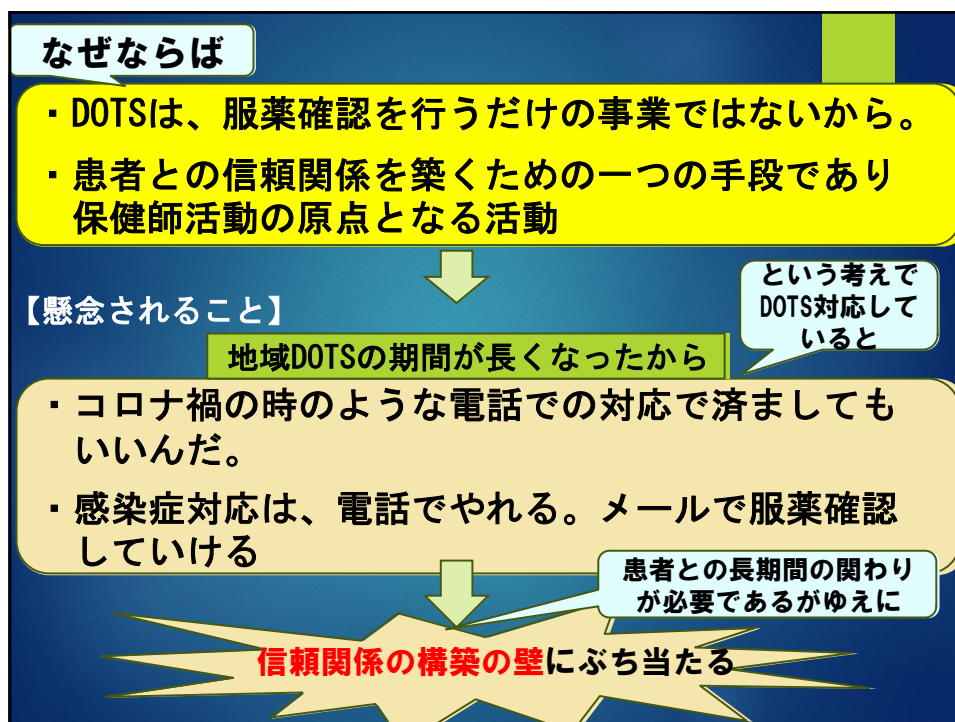
例えば

- ・コロナ禍は、対面DOTSが困難
- ・結核予防会結核研究所が開発したメール形式「飲みきるミカタ」が活用
(多言語に対応)
- ・非対面式DOTS方法の活用には

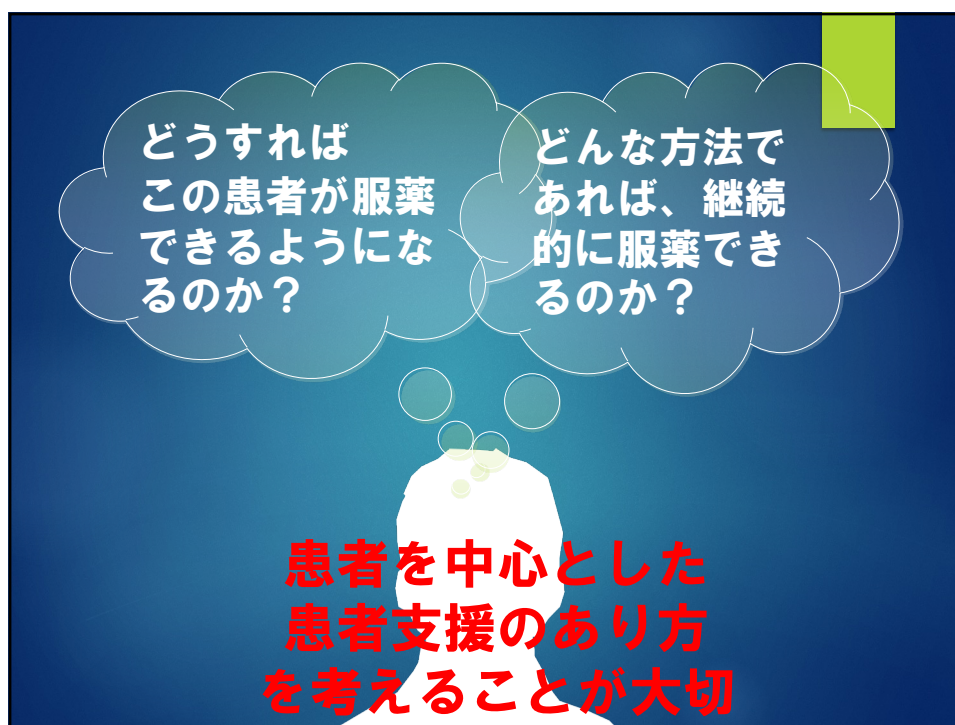
↓

- ・患者と保健師等がお互い信頼しあえる関係となっているかが大切！

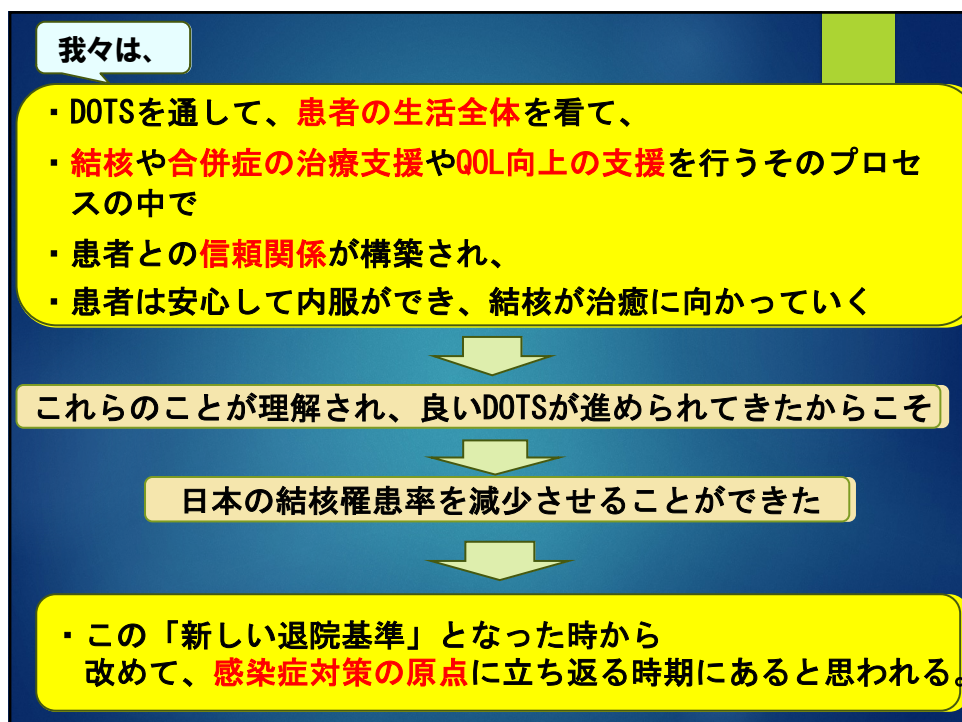
16



17



18



19



20